

## 子宮頸がんの予防接種を忘れずに

### 17歳～27歳の無料接種は今年度で終了

ヒトの癌の一部にはウイルスや細菌の感染が原因のものもあります。その場合はウイルスや細菌の感染を減らせばその癌になる人を減らすことができます。

子宮がんは女性の癌のなかで発生数5位、死亡数8位です。子宮体がんとう子宮頸がんがあります。子宮頸がんは年間約1万人がかかり、約3000人がなくなっています。30後半から40代前半という若い世代に多く、患者にも家族にも大変悲しい事態を起こします。

子宮頸がんはヒトパピローマウイルス (HPV) の感染が原因です。このウイルスは肛門がんや喉頭がんをおこすことがわかっています。HPVを予防できる優れたワクチンが開発され、世界で効果が発揮されています。日本でも2013年に定期接種が始まったのですが、重い副反応の報道が相次いだため事実上停止状態になっていました。その後は産婦人科学会などによる調査が続けられ、2022年4月にHPVワクチンの安全性については特段の懸念は認められない、接種による有効性が副反応のリスクを上回ると改めて認められ、全面的に再開されています。しかし、約10年間接種がストップしていたためたくさんの若い世代が受けておらず、今後の子宮頸がんの発生が心配されています。

国としては接種率が低い17歳～27歳の女性に対して現在無料で接種を行っています。この制度は2024年度いっぱいになっています。

1997年4月2日～2008年4月1日に生まれた女性は2025年3月31日まで子宮頸がんワクチンが無料で受けられます。ただし3回打つことが基本で1回目開始から3回目終了まで6か月必要です。したがって9月末までに1回目を受けなくてはなりません。

昨年からは定期接種で使えるようになった9価(9種類のHPVウイルス株に有効)はいままでのものよりより広くカバーできる優れたものです。副反応は接種部の痛み40～90%、腫れ・発赤9～40%。頭痛2～20%、発熱1～9%と報告されています。重篤な副反応は0～0.3%でした。まずは接種後30分以上しっかり休むのが大事です。低血圧になりやすい人は横になってもかまいません。体調の不良が長く続き心配なときは各都道府県に専門の相談外来ができています。当院では重篤な副反応は経験していません。若い世代の子宮頸がんを減らすためにぜひこのワクチンを受けてください。